

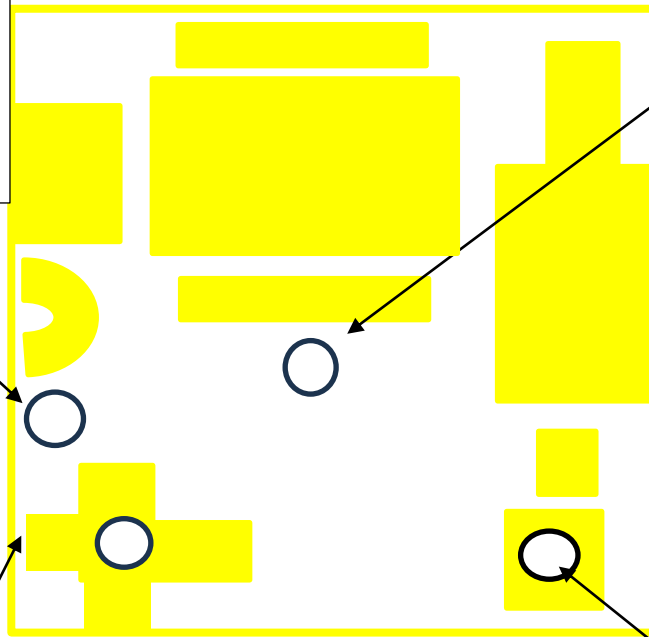
視聴覚教育
メディア論

石でたどる明学の歴史

大学構内には石碑や像など、石で作られた記念物があります。節目節目に作られたものたちを追いかけると、明学の歴史が見えてきます。

明治学院は近所で重要文化財の建物があることも知っているけれど、大学だから気軽には入れない…と感じている皆さん。このツアーに参加して、建物の内外を巡って学校の歴史を学びませんか？各スポットでスタンプを押し、1つの単語を完成させるスタンプラリー式のツアーです。

③藤村について理解が深まったところで、彼に関する印象的なエピソードを記した校歌碑を見に行きましょう。チャペルの裏側に植物に囲まれてひっそりと佇んでいます。



Meigaku Map



① 明治学院の創始者ヘボンの胸像の前からツアーはスタート。建学の経緯を振り返ります。素材は銅です。



出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

②実は記念館の1階にも胸像があります。モデルは本学2代目総理の井深梶之助。彼は2代目総理になる際、ヘボンからある言葉をかけられます。重要文化財に指定される記念館では、2人の絆を表すエピソードや、島崎藤村について館の学芸員の方から説明を受けます。

ある言葉とは…

「井深氏はその名の示す通り、梶であります。私は明治学院という船にこの新しい舵をつけました。この船はこれからどのような方向に乗り出しても、この舵は決して針路を誤りません。」とヘボンは語りました。

④スタンプを押したらフィナーレ。スタンプの答え合わせと、チャペルで椅子に座りながら今日知ったこと、印象的だったことを皆さんでシェアしましょう。

